

小唄のレコード

九鬼周造

青空文庫

林美子女史が北京の旅の帰りに京都へ寄つた。秋の夜だつた。成瀬無極氏と一緒に私の家へ見えた。日本の対支外交や排日問題などについて意見を述べたり、英米の対支文化事業や支那女性の現代的覺醒を驚嘆していた。支那の陶器の話も出た。何かの拍子に女史が小唄が好きだといったので、小唄のレコードをかけて三人で聴いた。

「小唄を聴いているとなんにもどうでもかまわないという氣になつてしまふ」と女史がいつた。私はその言葉に心の底から共鳴して、

「私もほんとうにそのとおりに思う。こういうものを聴くとなにもどうでもよくなる」といつた。すると無極氏は喜びを満面にあらわして、

「今まであなたはそういうことをいわなかつたではないか」

と私に詰るようにいつた。その瞬間に三人とも一緒に瞼を熱くして三人の眼から涙がにじみ出たのを私は感じた。男がつい口に出して言わなきことを林さんが正直に言つてくれたのだ。無極氏は、

「我々がふだん苦にしていることなどはみんなつまらないことばかりなのだ」

といって感慨を抑え切れないように、立つて部屋の内をぐるぐる歩き出した。林さんは黙

つてじつと下を向いていた。私はここにいる三人はみな無の深淵の上に壊れやすい仮小屋を建てて住んでいる人間たちなのだと感じた。

私は端唄や小唄を聞くと全人格を根柢から震撼するとでもいうような迫力を感じぬ」とが多い。肉声で聴く場合には色々の煩わしさが伴つてかえつて心の沈潜が妨げられることがあるが、レコードは旋律だけの純粹な領域をつくってくれるのでその中へ魂が丸裸で飛び込むことができる。私は端唄や小唄を聴いていると、自分に属して価値あるようにも思われていたあれだの「これだの」を悉く失つてもいややかも惜しくないという気持になる。ただ情感の世界にだけ住みたいという気持になる。

「えうせ」の世は水の流れか空ゆく雲か……」

Avalanche, veux-tu m'emporter dans ta chute ?

〔雪崩よ、汝が落下の裡に我を連れよかし〕

青空文庫情報

底本：「九鬼周造隨筆集」菅野昭正編、岩波文庫、岩波書店

1991（平成3）年9月17日第1刷発行

1992（平成4）年9月20日第3刷発行

底本の親本：「九鬼周造全集 第五卷」岩波書店

1991（平成3）年2月第2刷

入力：鈴木厚司

校正：松永正敏

2003年8月20日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.aozora.gr.jp/>) に作られました。入力、校正、制作にあたつたのは、ボランティアの皆様です。

小唄のレコード

九鬼周造

2020年 7月17日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>